

教職の魅力に関するアンケート調査報告にあたって (暫定版)

愛知教育大学では、文部科学省の「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」として教職の魅力向上に関する取組を進めています。この取組の一つとして、様々な立場の方々が持っている教職のイメージや魅力を明らかにする「教職の魅力に関するアンケート調査」を愛知県内の中学校や高等学校、愛知教育大学の附属学校、クロス・マーケティング社の協力を得て実施しました（2020年10月から2021年1月までの間に調査を実施）。

本調査では、教職のイメージ、教員が感じる働きがい、教員が抱える仕事のストレス、教員に求めることなどに関する設問とともに、回答者が魅力的だと思う仕事の要素や教職に対する魅力の度合いを調べました。また、今回の調査では、3つの異なる調査方法によって調査を実施いたしました。詳しい内容は後ほどの調査概要で示しますが、調査方法は次の通りです；(1)一般の成人を対象にした全国規模のインターネットによる調査（協力：クロス・マーケティング社）、(2)中高生を対象としたマークシートによる調査、(3)主として附属学校の保護者・教職員や愛知教育大学の学生が対象となったWebアンケート調査です。これらの調査を合わせることで、現在の日本社会における教職の外観を捉える貴重なデータを取得することができました。本報告書では得られた調査結果の概要を示しつつ、教職に対する魅力度を一つの軸として分析を与えます。

本調査には、各職種、各世代、各地域等から7000名近い多様な方々のご協力いただくことができました。この場を借りて感謝申し上げますとともに、この調査結果が多くの人々の目に留まり、教職の魅力を共に創る上での手掛かりを与えることを願っています。

2021年3月

愛知教育大学 学長

愛知教育大学 教職の魅力共創プロジェクト代表

野田 敦敬

調査概要

調査テーマ：様々な背景を持つ幅広い年代の方々の持つ教職（小学校・中学校・高等学校で児童・生徒を教育指導する職務）に対する魅力とイメージの実態や学校教員（小学校・中学校・高等学校の教員）に求めるものなどを明らかにする。

調査内容：魅力的だと思う仕事／教職に対する魅力度／教職のイメージ／学校教員の働きがい／学校教員が抱えるストレス／学校教員に求めること／教職に対するイメージはどこから得られたか、など。設問文は以下3つの調査方法で同じである。なお、実際の調査においてはこれらの設問に加えて記述式設問も設定したが、今回の報告書ではその結果の分析は与えていない。

回答数：6713 件

調査時期：2020 年 10 月－2021 年 1 月

調査方法：

(1) 全国規模の調査（協力：クロス・マーケティング社）

<形式> インターネット調査

<対象> 合計 2000 名 内訳／20 歳代：400 名，30 歳代：400 名，40 歳代：400 名，50 歳代：400 名，60 歳以上：400 名

<性別> 男性：1104 名，女性：882 名，回答しない：14 名

<地方> 北海道・東北，関東，中部，近畿，中国，四国，九州・沖縄の地域ごとの回答者数はおおよそ均等である。

<備考> 職業項目には高校生や大学生などを分けずに単に「学生」とする。

<略称> 次頁以降この調査を「全国調査」と略す。

(2) 中高生を対象の調査

<形式> マークシートアンケート調査

<対象> 合計 2731 名 内訳／中学生：983 名，高校生：1748 名

<地方> 愛知県の中学校と高等学校

<備考> 性別の設問項目なし，教員が抱えるストレスに関する設問なし。
マークシート集計のため，無回答・読込不可・指定を超える複数回答が僅かにある。

<略称> 次頁以降この調査を「中高生調査」と略す

(3) Web アンケート調査

<形式> インターネット調査

<対象> 1982名 ホームページを通じて広く一般にアンケート協力を呼びかけてはいたものの、主に附属学校の保護者・教職員，愛知教育大学の学生が回答の大半を占めると見られる。

<地方> 愛知県居住者が96.8%

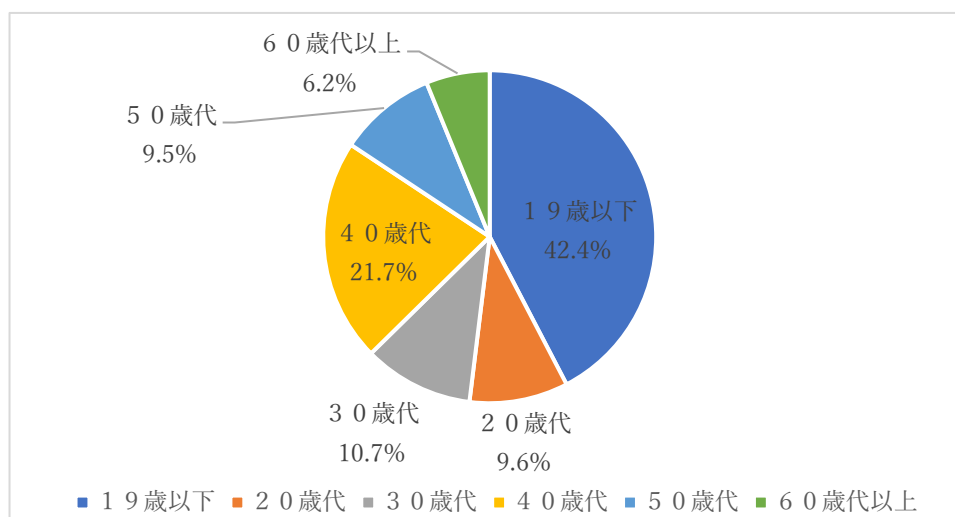
<備考> 性別の設問項目なし。公開アンケートのため同一回答者による複数回の回答も可能。

<略称> 次頁以降この調査を「Web 調査」と略す

回答者の基本属性

はじめに，アンケートの回答者の基本属性を明らかにしておく。回答者の居住地については，愛知県内の中学校と高等学校の生徒を全て愛知県に居住していると仮定すると，愛知県居住者が71.0%，愛知県以外の居住者が29.0%であった。図1の回答者の年代分布に示されているように，中高生からの回答件数が多かったため19歳以下の回答の割合が42.4%と最も多く，40歳代の回答の割合が21.7%と次に多かった。

図1：回答者の年代分布



回答者6713名の職業を表1に示す。回答者の職業として多かったのは，高校生，会社員，中学生，パート・アルバイト，専業主婦（夫）であるが，その他の職業に従事する様々な方々からも多くの回答が得られた。また，当事者である学校教員からも231名分の回答が得られた。

表1：回答者の職業

職業	回答数	割合 (%)
中学生	986	14.7
高校生	1817	27.1
大学生	187	2.8
学生（全国調査）	76	1.1
学校教員	231	3.4
大学教員	66	1.0
公務員（学校教員を除く）	156	2.3
団体職員（大学教員を除く）	67	1.0
会社員	1176	17.5
パート・アルバイト	737	11.0
会社経営者	60	0.9
個人事業主	235	3.5
専業主婦（夫）	731	10.9
その他	188	2.8

魅力的だと思う仕事

個人の持つ職業観は様々であり、職業の魅力はそうした職業観に依存すると考えられる。そこで、回答者がどのような仕事に魅力を感じるのかを明らかにするために、仕事の魅力要素を18項目設定して「あなたが魅力的だと思う仕事を次のリストの中から4つ選んでください。」という設問に回答してもらった。

表2に示されているように、魅力的だと思う仕事の上位は「世の中のためになる仕事」「高収入が得られる仕事」「休暇（産休、育休、有給休暇、長期休暇）を取得しやすい仕事」であった。これを年代別に見ると、年代が高いほど「専門的な知識や技能が必要とされる仕事」を重視し（19歳以下：17.9%、20歳代：24.4%、30歳代：31.0%、40歳代：39.2%、50歳代：35.9%、60歳代以上：38.1%）、年代が若いほど「休暇を取得しやすい仕事」を重視する（19歳以下：42.4%、20歳代：42.6%、30歳代：36.1%、40歳代：33.2%、50歳代：25.3%、60歳代以上：17.7%）傾向が見られた。

「休暇を取得しやすい仕事」については、全国調査における回答結果で性差による違い（男性：17.0%、女性：40.4%）がはっきりと現れたほぼ唯一の項目であった。また「仲間と協力し合える仕事」について、他の年代では14.8%–19.1%であるのに対して19歳以下は32.2%と高く、ここに中高生特有の特徴が見られた。

表2：魅力的だと思う仕事の設問における回答の割合（％）

項目	割合（％）
人と関わる仕事	31.9
世の中のためになる仕事	42.7
専門的な知識や技能が必要とされる仕事	27.5
創造的で発展的な仕事	17.9
社会的評価が高い仕事	11.1
高収入が得られる仕事	41.9
失業の心配がない仕事	28.2
長時間労働がない仕事	25.4
健康リスクの低い仕事	15.5
仕事上のストレスが小さい仕事	31.1
男女平等で、男女がともに活躍できる仕事	19.1
休暇（産休、育休、有給休暇、長期休暇）を取得しやすい仕事	36.6
医療保険や年金制度が整備されている仕事	14.5
職階別の研修制度がある仕事	1.5
個人のキャリアアップのための支援制度がある仕事	6.2
組織内における自主的勉強会などの活動がある仕事	1.9
仲間と協力し合える仕事	23.8
自分の判断やペースで仕事を進められる仕事	1.5

教職に対する魅力度

ある個人が抱く職業のイメージは、その人の職業に対する魅力の度合いと関係する。そこで「あなたは教職に魅力を感じますか。」という設問について、4件法（「とても魅力を感じる」「まあ魅力を感じる」「あまり魅力を感じない」「全く魅力を感じない」）で回答してもらった。

図2より魅力を感じる（「とても魅力を感じる」＋「まあ魅力を感じる」）と魅力を感じない（「あまり魅力を感じない」＋「全く魅力を感じない」）の回答の割合はそれぞれ48.5％と50.9％で拮抗していた。実際には、図3にあるように、3つの調査で結果は大きく異なり、魅力を感じると魅力を感じないとの回答数の比は、全国調査で3対7、中高生調査で5対5、Web調査で7対3程度であった。

図2：教職に対する魅力度の設問における回答の割合（％）

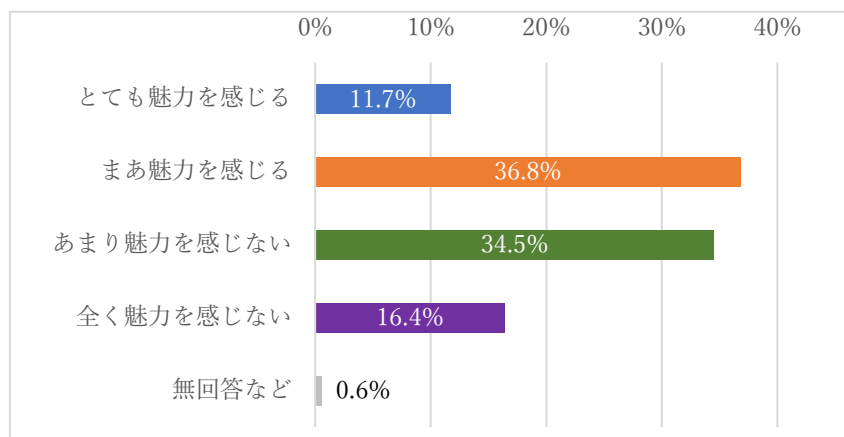
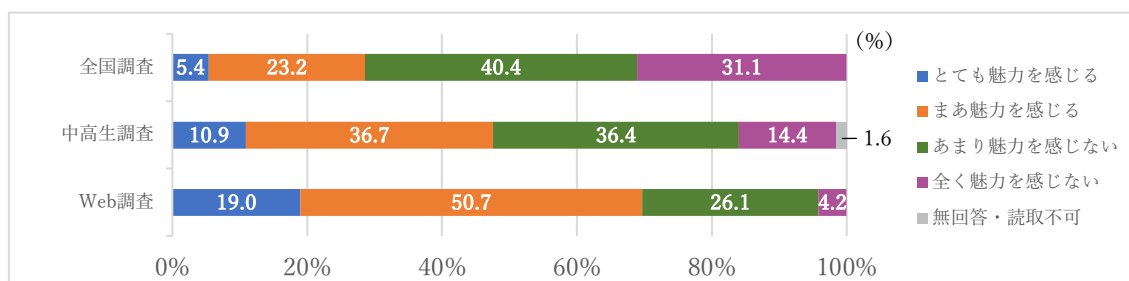


図3：3つの調査方法ごとの教職に対する魅力度の設問における回答の割合（％）



前ページで紹介した魅力的だと思う仕事の設問について教職の魅力度別に見たときの各項目の回答の割合を表3に示す。この結果から、教職に魅力を感じるものほど「人と関わる仕事」と「世の中のためになる仕事」を回答する傾向が、教職に魅力を感じないものほど「長時間労働がない仕事」と「仕事上のストレスが小さい仕事」を回答する傾向が見られた。

表3：教職に対する魅力度別の魅力的だと思う仕事の回答の割合（％）

[項目の内容と順序は表2を参照]

教職の魅力度	人	世の中	専門性	創造性	社会的評価	収入	失業	長時間労働	健康リスク
とても感じる	62.5	59.3	32.8	23.6	13.8	26.8	20.8	9.7	11.2
まあ感じる	36.3	50.8	29.3	20.0	11.8	38.0	24.8	20.0	13.0
あまり感じない	24.1	36.9	26.6	15.7	10.2	46.4	30.9	27.7	17.4
全く感じない	16.7	25.1	21.4	14.3	9.7	51.9	34.6	44.0	20.7
教職の魅力度	ストレス	男女平等	休暇取得	保険年金	研修制度	キャリア	勉強会	仲間と協力	裁量
とても感じる	13.0	25.2	28.5	11.6	2.3	6.0	2.0	33.1	17.2
まあ感じる	27.0	22.0	37.3	13.0	1.4	6.9	1.8	26.5	20.3
あまり感じない	36.0	17.4	38.7	17.2	1.4	6.3	2.0	21.6	24.8
全く感じない	43.2	11.7	36.1	14.2	1.5	5.0	1.8	15.1	33.0

教職のイメージ

一般の人々が持つ教職のイメージとは一体どのようなものだろうか。ここでは魅力的だと思える仕事の設問で設定した仕事の魅力要素 18 項目に基づいて、教職のイメージを明らかにする。そこで「あなたが持つ教職のイメージに、次のことは当てはまりますか。」という設問について、それぞれ 4 件法（「とても当てはまる」「まあ当てはまる」「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」）で回答してもらった。

図 4：教職のイメージの設問における回答の割合（％）

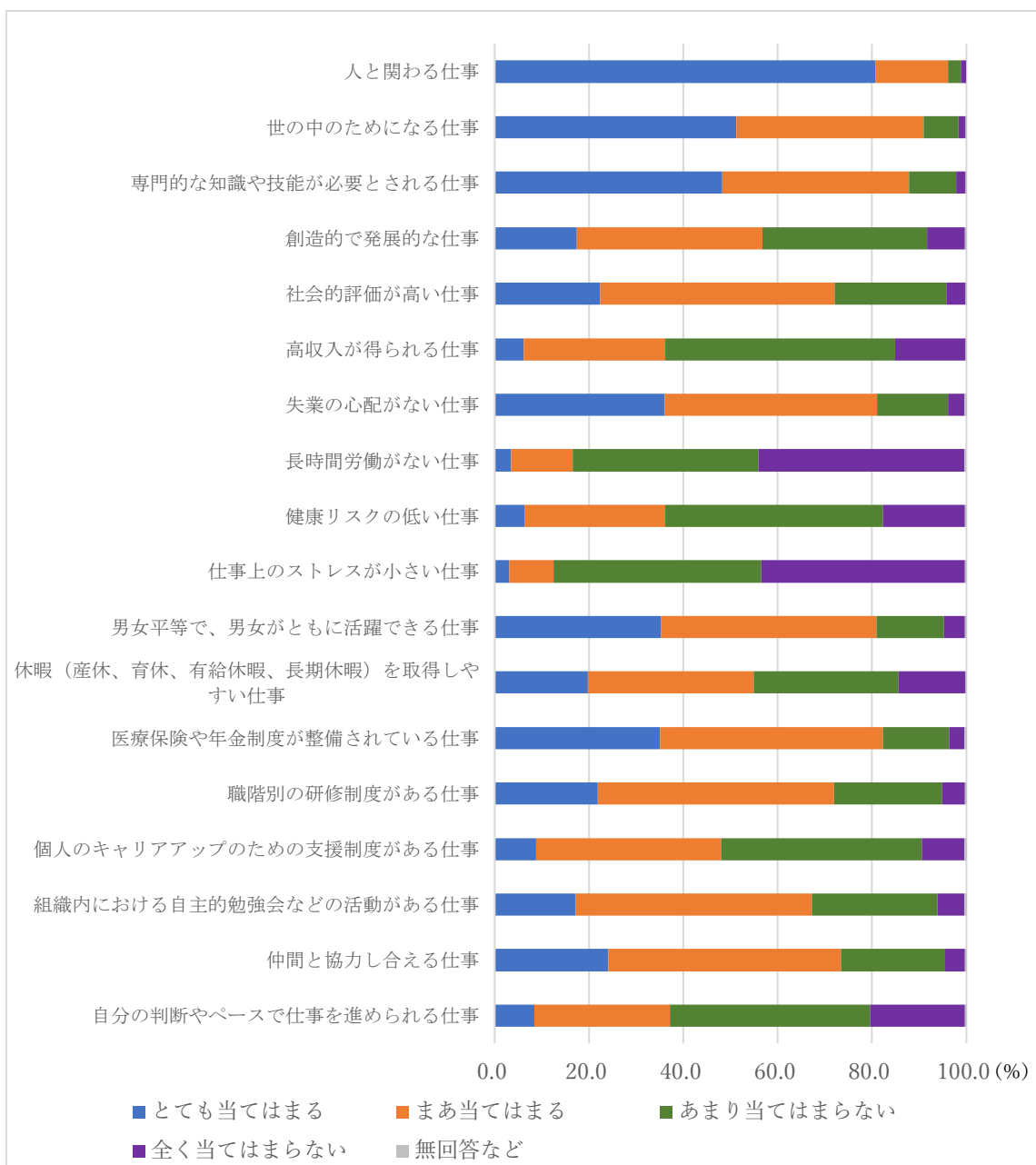


図4の結果から、教職の内容面や安定・保障面においては肯定的イメージがあるものの、労働環境面においては否定的イメージがあることが分かった。教職に対する肯定的なイメージと否定的なイメージが顕著に見られた項目は次の通りである。

<教職の肯定的イメージ>

内容：「世の中のためになる仕事」「専門知識や技能が必要とされる仕事」

安定・保障：「失業の心配がない仕事」「医療保険や年金制度が整備されている仕事」

労働環境：「男女平等で、男女が共に活躍できる仕事」

<教職の否定的イメージ>

労働環境：「長時間労働がある（多い）仕事」「仕事上のストレスがある（多い）仕事」

教職に対する魅力度別に教職のイメージの回答結果を見ると、当然のことではあるが教職に魅力を感じる回答者ほど教職に対する肯定的イメージを持つ傾向があった。特に「創造的で発展的な仕事」と「仲間と協力し合える仕事」において、教職に魅力を感じる層と感ぜない層の回答に大きな差が見られた。図4に示されているように、「創造的で発展的な仕事」については、当てはまる（「とても当てはまる」＋「まあ当てはまる」）と当てはまらない（「あまり当てはまらない」＋「全く当てはまらない」）の回答差は比較的小さい。そこで、この項目について教職の魅力度別に当てはまるに回答した割合を見ると、教職に「とても魅力を感じる」層で76.5%、「まあ魅力を感じる」層で67.6%、「あまり魅力を感じない」層で48.6%、「全く魅力を感じない」層で35.9%であった。つまり教職が「創造的で発展的な仕事」であるというイメージは、教職に対して魅力を感じているかどうかによって評価が大きく分かれる項目であることが分かった。

学校教員の働きがい

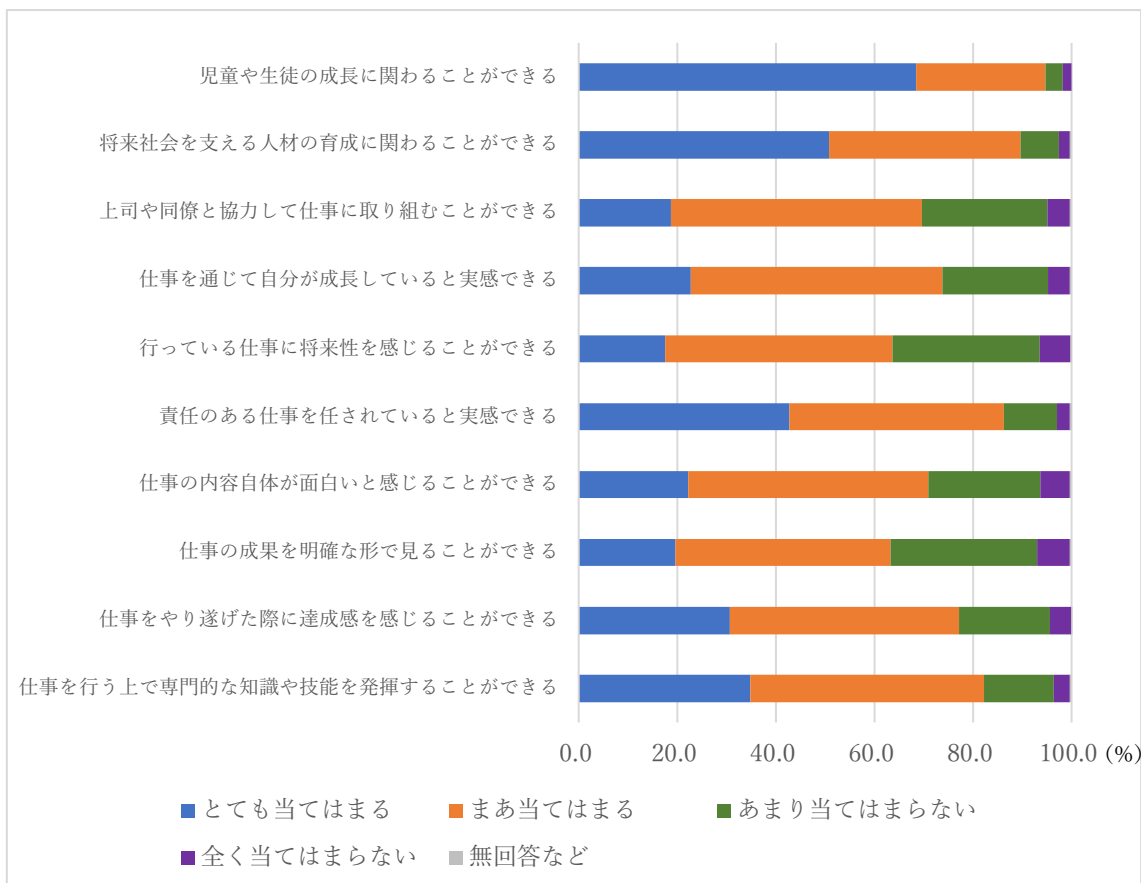
ある職業に対する魅力は、その職業に就く者が何に働きがいを感じているのかというイメージと関係する。そこで、特に教職の内容面に関する魅力について意識を測るため「学校教員が感じる働きがいに、次のことは当てはまると思いますか。」という設問について、それぞれ4件法（「とても当てはまる」「まあ当てはまる」「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」）で回答してもらった。

図5から、教職は働きがいを感じられる職業だと広く見なされており、特に人を育てること、責任ある仕事を任されていること、専門性を発揮できることに対して学校教員が働きがいを感じていると考えられていることが分かった。

教職に対する魅力度別に学校教員の働きがいの回答結果を見ると、教職のイメージと同様に教職に魅力を感じる回答者ほど働きがいに対する肯定的意見が多かった。その中でも

教職に魅力を感じる層と感じない層の回答差が大きかったのは「仕事の内容自体が面白いと感じることができる」で、当てはまる（「とても当てはまる」＋「まあ当てはまる」）に回答した割合は「とても魅力を感じる」層で 92.6%，「まあ魅力を感じる」層で 84.2%，「あまり魅力を感じない」層で 62.5%，「全く魅力を感じない」層で 44.5%であった。

図5：学校教員の働きがいの設問における回答の割合（%）



学校教員が抱えるストレス

どのような職業でも仕事をする上でストレスは発生するが、学校教員においては上司や同僚との協力関係の中で職務を果たすことに加えて、先生という立場で個性豊かな児童・生徒を指導する、保護者への説明責任を負うなど、他の職業とは異なるストレス原因が存在する。仕事上のストレスに対するイメージは、特に職業の労働環境面での魅力の印象と関係する。そこで「学校教員が抱える仕事上のストレスの原因に、次のことは当てはまると思いますか。」という設問について、それぞれ4件法（「とても当てはまる」「まあ当てはまる」「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」）で回答してもらった。なお、本設問は中高生調査では省かれているため、本設問の回答総数は 3982 件であった。

図6：学校教員が抱えるストレスの設問における回答の割合（％）

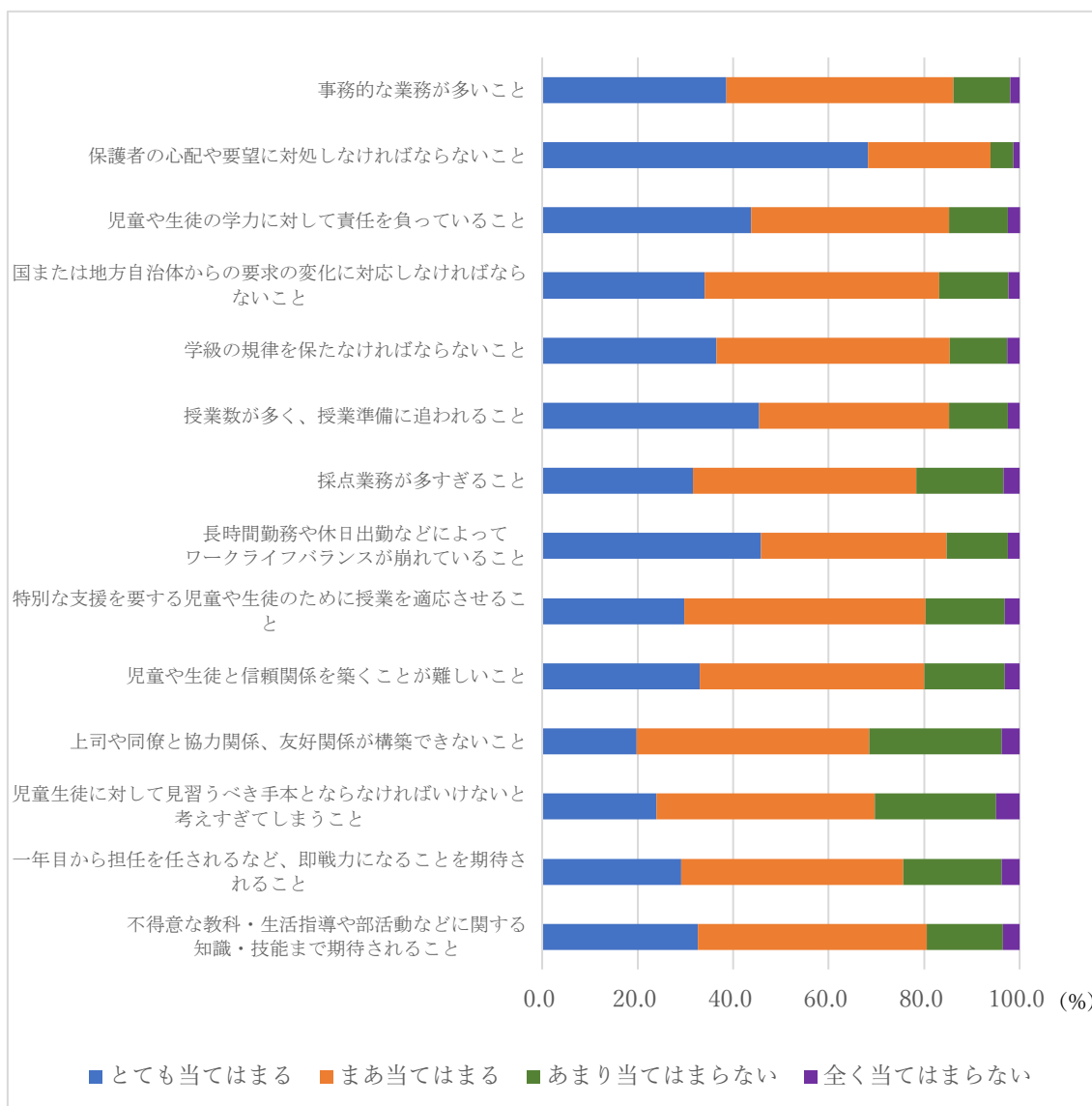


図6から、設問項目の14項目のうち10項目で当てはまる（「とても当てはまる」＋「まあ当てはまる」）の回答の割合が80%を超えるなど、教職は仕事上のストレス原因が多い職業だと見なされていることが分かった。とりわけ「保護者の心配や要望に対処しなければならないこと」については、「とても当てはまる」の回答の割合が68.3%と極めて高かった。

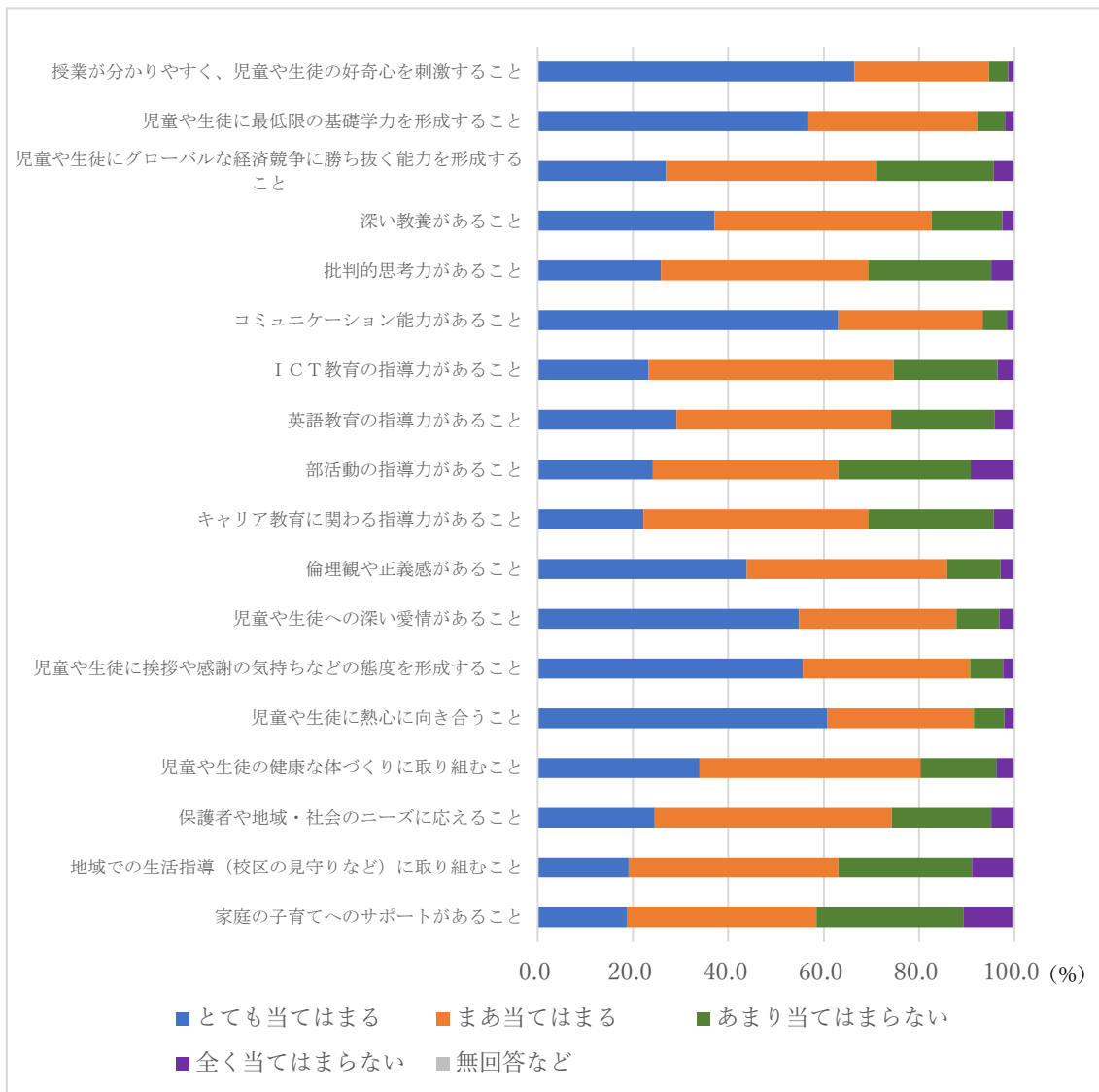
全ての項目について、ストレスの原因に当てはまる（「とても当てはまる」＋「まあ当てはまる」）と回答した回答者が多かったこともあり、教職のイメージや学校教員の働きがいの設問とは異なり、学校教員が抱えるストレスの設問においては教職に対する魅力度別の回答結果にそれほど大きな差は見られなかった。

学校教員に求めること

学校教員は教科の指導力に加えて、知性や人格そして地域社会への貢献なども期待されている。また近年では、社会構造の急速な変革に伴って、従来の教科指導とは異なる指導力も国や社会から求められている。そこで「あなたが学校教員に求めることに、次のことは当てはまりますか。」という設問について、それぞれ4件法（「とても当てはまる」「まあ当てはまる」「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」）で回答してもらった。

図7から、学校教員に対して教科の指導力や人格そして児童・生徒との係わりに関する項目について当てはまる（「とても当てはまる」＋「まあ当てはまる」）と回答したものが多かった。

図7：学校教員に求めることの設問における回答の割合（％）



年代別に見ると、図7にある「授業がわかりやすく、児童や生徒の好奇心を刺激すること」から「キャリア教育に関わる指導力があること」までの教員の指導力や知性に関連する10項目全てにおいて19歳以下の求める割合が最も高く、中高生の学校教員に対する期待の高さが伺える。とりわけ注目すべきは、「部活動への指導力があること」であり、「とても当てはまる」と回答した割合が40.3%であり、他の世代の割合10.0-14.2%と比べて著しく高かった。現在、部活動の外部への委託が進む中で、当事者である中高生を置き去りにしない対応が望まれる。

また、教職に対する魅力度別に学校教員に求めることの回答結果を見ると、教職に魅力を感じるものほど学校教員への期待が高くなる傾向が見られた。

教職に対するイメージはどこから得られたか

現在、新聞・テレビ、インターネット、SNSなどの各種メディアを通じて教職のあり方や教職の問題点などについて取り上げられ論じられている。その一方で、他の職業と異なり、教職は誰もが個々人の学校生活を通じてその職業に就く学校教員と身近に接する機会を持つ稀有な職業である。そこで「あなたが持つ教職に対するイメージはどこから得られたものですか。影響力が大きいものを、次のリストの中から最大3つまで選んでください。」という設問について回答してもらった。

表4は回答の割合が高かった項目から順に並べてある。この結果から、教職のイメージは新聞・テレビの報道と身近な学校教員たちからの影響によって形作られていることが明らかとなった。

表4：教職に対するイメージはどこから得られたかの設問における回答の割合（%）

項目	割合（%）
新聞やテレビの報道などから	53.9
あなたやあなたの親類が通っている（いた）学校の教員たちから	50.4
身の回りの学校教員である家族や友人や知人たちから	36.7
身の回りの学校教員でない家族や友人や知人たちから	19.5
インターネットのニュースや著名人のブログなどから	17.0
SNSなどのコミュニケーションツールなどから	12.1
書籍や雑誌などから	11.5
学校教員である（あった）自身の経験から	6.9
政府の会議資料や国際機関の調査資料などから	5.6

メディアの影響について、年代別に見ると、インターネットについては世代による変化はほぼ見られなかったものの、新聞・テレビの報道による影響は年代が高いほど強い傾向があり（10代：48.1%，20代：49.6%，30代：55.8%，40代：58.2%，50代：59.8%，60代：71.5%），SNSによる影響は年齢が低いほど強くなる傾向があった（10代：17.6%，20代：18.7%，30代：11.9%，40代：0.4%，50代：0.5%，60代：0.3%）。

また、回答の割合が多かった「新聞やテレビの報道などから」（新聞・テレビ）、「あなたやあなたの親類が通っている（いた）学校の教員たちから」（学校の教員）、「身の回りの学校教員である家族や友人や知人たちから」（身の回りの教員）の3つの項目について、教職に対する魅力度別に回答の割合を調べると、表5の結果となった。この結果から、教職に「とても魅力を感じる」層は新聞やテレビの報道よりも身近な学校教員の回答の割合の方が高く、教職に魅力を感じない（「あまり魅力を感じない」＋「全く魅力を感じない」）層は身近な学校教員よりも新聞やテレビの報道の回答の割合の方が高かった。

表5：教職に対する魅力度別の上位3項目に対する回答の割合（%）

教職の魅力度	新聞・テレビ	学校の教員	身の回りの教員
とても魅力を感じる	43.0	56.3	45.5
まあ魅力を感じる	52.9	53.3	40.5
あまり魅力を感じない	57.4	49.0	34.3
全く魅力を感じない	56.6	42.4	26.6

学校教員が捉える教職の姿

ここまで、一般の人々が持つ教職のイメージについて明らかにしてきた。最後に、全回答者6713名のうち学校教員231名の回答結果を抽出することで、当事者である学校教員がどのように教職の姿を捉えているのかを示す。特に教職のイメージ、学校教員の働きがい、学校教員が抱えるストレスに関する設問の回答結果を見ることで、一般の人々が持つ教職のイメージと学校教員が持つ教職のイメージの類似点と相違点を明らかにする。

はじめに、学校教員が魅力的だと思う仕事の上位は「人と関わる仕事」（58.0%）、「世の中のためになる仕事」（54.1%）、「創造的で発展的な仕事」（34.6%）、「専門的な知識や技能が必要とされる仕事」（32.5%）、「仲間と協力し合える仕事」（34.6%）であった。また、教職に対する魅力については「とても魅力を感じる」（38.5%）、「まあ魅力を感じる」（51.5%）、「あまり魅力を感じない」（8.2%）、「全く魅力を感じない」（1.7%）という結果が得られた。

教職のイメージの設問に対して、各項目において当てはまる（「とても当てはまる」＋「まあ当てはまる」）と回答した割合を表6に示す。この結果から、一般の人々（学校教

員の回答を含むがその影響は小さい)と同様に、学校教員は教職の内容面や安定・保障面においては肯定的イメージを持つ一方で、労働環境面においては否定的イメージを持っている事が分かった。また、こうしたイメージは一般の人々よりもむしろ学校教員の方が強かった。一般の人々と学校教員の持つ教職のイメージにおいて大きな差が見られたのは「創造的で発展的な仕事」と「仲間と協力し合える仕事」であり、学校教員は教職のこうした側面についてとても肯定的に捉えていることが分かった。

表6：教職のイメージの設問において当てはまると回答した割合（％）

[項目内容・順序は図4を参照]

対象	人	世の中	専門性	創造性	社会的評価	収入
学校教員	99.1	97.0	97.0	88.7	52.8	20.8
一般	96.1	90.9	87.9	56.8	72.1	36.2
対象	失業	長時間労働	健康リスク	ストレス	男女平等	休暇取得
学校教員	85.7	5.6	13.9	6.1	81.0	60.2
一般	81.1	16.5	36.2	12.5	81.0	54.9
対象	保険年金	研修制度	キャリア	勉強会	仲間と協力	裁量
学校教員	92.2	70.1	36.4	61.0	93.5	45.9
一般	82.3	71.9	48.0	67.3	73.4	37.1

次に、学校教員の働きがいについての設問に対して、各項目において当てはまると回答した割合を表7に示す。この結果から、学校教員は一般の人々よりも強く教職は働きがいを感じられる職業だと見なしていることが分かった。その一方で、「仕事の成果を明確な形で見ることができる」だけは当てはまると回答した割合が一般の人々よりも低く、50%を下回った。仕事の成果をどこに設定するか次第であるが、教育の目標を児童・生徒の成長や育成として捉えた場合には、教職の仕事の成果はすぐに見られるものではないことを示唆しているように思える。

表7：学校教員の働きがいの各項目において当てはまると回答した割合（％）

[項目内容・順序は図5を参照]

対象	子供の成長	人材の育成	同僚と協力	自分の成長	将来性
学校教員	98.7	97.0	84.8	81.0	69.3
一般	94.7	89.6	69.6	73.8	63.7
対象	責任	仕事内容	成果	達成感	知識技能
学校教員	88.7	88.3	49.8	81.4	85.3
一般	86.3	71.0	63.3	77.2	82.3

最後に、学校教員が抱えるストレスの設問に対して、各項目において当てはまると回答した割合を表8に示す。学校教員が抱えるストレスとして「事務的な業務が多いこと」「保護者の心配や要望に対処しなければならないこと」「長時間労働や休日出勤などによってワークライフバランスが崩れていること」を当てはまると回答した学校教員が9割を超えた。その他の項目についても、当てはまると回答した割合は高かった。しかしながら、全体的に見ると、当てはまると回答した学校教員の割合は、一般の人々と比較すると低めだった。特に「児童や生徒と信頼関係を築くことが難しいこと」「上司や同僚と協力関係、友好関係が構築できないこと」「児童生徒に対して見習うべき手本とならなければいけないと考えすぎてしまうこと」については、当てはまるに回答する割合は50%前後であり、一般の人々と学校教員の回答差が目立った。

表8：学校教員が抱えるストレスの設問において当てはまると回答した割合（%）
[項目内容・順序は図6を参照]

対象	事務業務	保護者要望	学力の責任	国の要求	学級の規律	授業負担	採点業務
学校教員	94.8	91.8	77.9	81.8	72.3	81.0	70.1
一般	86.1	93.9	85.2	83.2	85.3	85.2	78.4
対象	ワークライフ バランス	特別な支援	児童生徒との 信頼関係	上司同僚との 協力関係	見習うべき 手本	即戦力	不得意な 指導や活動
学校教員	91.8	77.5	56.7	54.5	42.4	63.6	75.3
一般	84.7	80.3	80.1	68.5	69.7	75.6	80.6

付録：アンケート調査の質問フォーム

教職の魅力に関するアンケート

愛知教育大学では、文部科学省の「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」として教職の魅力向上に関する取組を進めています。この取組の一つとして、様々な立場の方々から、教職のイメージや魅力などについて回答していただき、その結果から現在の社会における教職の外観を探ることで、教職の魅力向上に向けた課題を明らかにすることを目的としたアンケート調査を実施しています。アンケートに回答していただく時間は5分から10分程度です。頂いた回答は本アンケート調査の目的以外で使用することも、個人情報特定される形で公表することもございませんので、率直なご意見をお聞かせ頂くよう、よろしくお願いいたします。

なお、以下では「教職」と「学校教員」を以下のように定義しております。

「教職」：小学校・中学校・高等学校で児童・生徒を教育指導する職務

「学校教員」：小学校・中学校・高等学校の教員

代表：愛知教育大学 学長 野田 敦敬

1. あなたの居住地（都道府県）を教えてください。
都道府県の選択（プルダウン）
2. あなたの年代を教えてください。
 - 10歳代以下（19歳以下）
 - 20歳代
 - 30歳代
 - 40歳代
 - 50歳代
 - 60歳代
 - 70歳代以上（70歳以上）
3. あなたの現在の職業（退職された方は前職）を教えてください。
 - 中学生
 - 高校生
 - 大学生
 - 学校教員
 - 大学教員
 - 会社員
 - 公務員（学校教員を除く）

- 団体職員（大学教員を除く）
- パート・アルバイト
- 会社経営者
- 個人事業主
- 専業主婦（夫）
- その他

質問内容

4. あなたが魅力的だと思う仕事を次のリストの中から4つ選んでください。

- 人と関わる仕事
- 世の中のためになる仕事
- 専門的な知識や技能が必要とされる仕事
- 創造的で発展的な仕事
- 社会的評価が高い仕事
- 高収入が得られる仕事
- 失業の心配がない仕事
- 長時間労働がない仕事
- 健康リスクの低い仕事
- 仕事上のストレスが小さい仕事
- 男女平等で、男女がともに活躍できる仕事
- 休暇（産休、育休、有給休暇、長期休暇）を取得しやすい仕事
- 医療保険や年金制度が整備されている仕事
- 職階別の研修制度がある仕事
- 個人のキャリアアップのための支援制度がある仕事
- 組織内における自主的勉強会などの活動がある仕事
- 仲間と協力し合える仕事
- 自分の判断やペースで仕事を進められる仕事

5. あなたは教職に魅力を感じますか。

- とても魅力を感じる
- まあ魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- 全く魅力を感じない

6. あなたが持つ教職のイメージに、次のことは当てはまりますか。

とても当てはまる まあ当てはまる あまり当てはまらない 全く当てはまらない

- ・ 人と関わる仕事
- ・ 世の中のためになる仕事
- ・ 専門的な知識や技能が必要とされる仕事
- ・ 創造的で発展的な仕事
- ・ 社会的評価が高い仕事
- ・ 高収入が得られる仕事
- ・ 失業の心配がない仕事
- ・ 長時間労働がない仕事
- ・ 健康リスクの低い仕事
- ・ 仕事上のストレスが小さい仕事
- ・ 男女平等で、男女がともに活躍できる仕事
- ・ 休暇（産休、育休、有給休暇、長期休暇）を取得しやすい仕事
- ・ 医療保険や年金制度が整備されている仕事
- ・ 職階別の研修制度がある仕事
- ・ 個人のキャリアアップのための支援制度がある仕事
- ・ 組織内における自主的勉強会などの活動がある仕事
- ・ 仲間と協力し合える仕事
- ・ 自分の判断やペースで仕事を進められる仕事

7. 学校教員が感じる働きがいに、次のことは当てはまると思いませんか。

とても当てはまる まあ当てはまる あまり当てはまらない 全く当てはまらない

- ・ 児童や生徒の成長に関わることができる
- ・ 将来社会を支える人材の育成に関わることができる
- ・ 上司や同僚と協力して仕事に取り組むことができる
- ・ 仕事を通じて自分が成長していると実感できる
- ・ 行っている仕事に将来性を感じることができる
- ・ 責任のある仕事を任されていると実感できる
- ・ 仕事の内容自体が面白いと感じることができる
- ・ 仕事の成果を明確な形で見ることができる
- ・ 仕事をやり遂げた際に達成感を感じることができる
- ・ 仕事を行う上で専門的な知識や技能を発揮することができる

8. 学校教員が抱える仕事上のストレスの原因に、次のことは当てはまると思いますか。

とても当てはまる まあ当てはまる あまり当てはまらない 全く当てはまらない

- ・ 事務的な業務が多いこと
- ・ 保護者の心配や要望に対処しなければならないこと
- ・ 児童や生徒の学力に対して責任を負っていること
- ・ 国または地方自治体からの要求の変化に対応しなければならないこと
- ・ 学級の規律を保たなければならないこと
- ・ 授業数が多く、授業準備に追われること
- ・ 採点業務が多すぎる
- ・ 長時間勤務や休日出勤などによってワークライフバランスが崩れていること
- ・ 特別な支援を要する児童や生徒のために授業を適応させること
- ・ 児童や生徒と信頼関係を築くことが難しいこと
- ・ 上司や同僚と協力関係、友好関係が構築できないこと
- ・ 児童生徒に対して見習うべき手本となればいけないと考えすぎてしまうこと
- ・ 一年目から担任を任されるなど、即戦力になることを期待されること
- ・ 不得意な教科・生活指導や部活動などに関する知識・技能まで期待されること

9. あなたが学校教員に求めることに、次のことは当てはまりますか。

とても当てはまる まあ当てはまる あまり当てはまらない 全く当てはまらない

- ・ 授業が分かりやすく、児童や生徒の好奇心を刺激すること
- ・ 児童や生徒に最低限の基礎学力を形成すること
- ・ 児童や生徒にグローバルな経済競争に勝ち抜く能力を形成すること
- ・ 深い教養があること
- ・ 批判的思考力があること
- ・ コミュニケーション能力があること
- ・ ICT教育の指導力があること
- ・ 英語教育の指導力があること
- ・ 部活動の指導力があること
- ・ キャリア教育に関わる指導力があること
- ・ 倫理観や正義感があること
- ・ 児童や生徒への深い愛情があること
- ・ 児童や生徒に挨拶や感謝の気持ちなどの態度を形成すること
- ・ 児童や生徒に熱心に向き合うこと
- ・ 児童や生徒の健康な体づくりに取り組むこと
- ・ 保護者や地域・社会のニーズに応えること
- ・ 地域での生活指導（校区の見守りなど）に取り組むこと
- ・ 家庭の子育てへのサポートがあること

10. あなたが持つ教職に対するイメージはどこから得られたものですか、影響力が大きいものを、次のリストの中から最大3つまで選んでください。

- 新聞やテレビの報道などから
- 書籍や雑誌などから
- 政府の会議資料や国際機関の調査資料などから
- インターネットのニュースや著名人のブログなどから
- SNSなどのコミュニケーションツールなどから
- あなたやあなたの親類が通っている（いた）学校の教員たちから
- 身の回りの学校教員である家族や友人や知人たちから
- 身の回りの学校教員でない家族や友人や知人たちから
- 学校教員である（あった）自身の経験から

11. 教職自体または教職を取り巻く環境の何が変われば、あなたは教職により魅力を感じますか。（任意回答）

自由記述

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。